

「重富小ジュニア観光ガイド」

1 学校名

始良市立重富小学校

2 学年・人数

重富小学校4年生以上で地域塾「重富振業館」に入塾を希望した68名

3 日時・場所

(1) 学習会等の日時・場所

「重富検定」への挑戦（年間，校長室）

(2) 発表の日時・場所

- 始良市観光周遊バス「あいらびゅー号」が平松城跡である重富小への来訪時
- 国民文化祭「歩き・み・ふれる歴史の道」で，平松城跡がコースに指定されたとき

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

岩剣城跡（戦国時代）、平松城跡、白銀坂（江戸時代）、重富小学校正門（明治以降）

(2) 特徴

重富小学校は江戸時代に島津義弘が一時的に居城とし、越前島津家の館があった場所で、近世を通じて重富の政治的中心地であった場所である。また正門は現在の鹿児島市中央公園にあり、明治12年（1879）から大正14年（1925）まで旧鹿児島県庁の正門として使用されたもので国登録有形文化財になっている。周辺には島津と大隅方との戦いで島津義弘が初陣を飾った岩剣城跡や義弘が陣を置き、江戸時代の主要街道大口筋・東目筋の一部として石畳が整備された白銀坂がある。

5 保存会や地域との連携の具体

地域塾の塾生68名を対象に「重富検定」を行い、重富小学校とその校区にある史跡などについて学習している。学習したことをもとに、始良市観光周遊バス「あいらびゅー号」のコースに平松城跡の重富小学校が該当した際や、フットパス、国民文化祭「歩き・み・ふれる歴史の道」などのイベントの際に重富小学校前でジュニア観光ガイド活動を行っている。

6 活用の取組の工夫した点

地域塾の活動については、子どもたちの自主参加が基本で強制は一切ない。ジュニア観光ガイド活動については、観光客から大変好評で、子どもたちへの温かい声かけのおかげで、ふるさとに対する愛着心や誇りが高まっており、子どもたちの自主的・意欲的な参加にも繋がっている。

7 取組の様子



ジュニア観光ガイド



ジュニア観光ガイド

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

ジュニア観光ガイド活動に参加した感想を新聞のひろば欄「若い目」に投稿したところ、2回も掲載された。

観光客の方から「あなたたちは、こんなに素敵なお歴史のある学校に通えていいわね。」と言われた子は、とても嬉しかったらしく、その感動を父親に話したそうである。すると、「だから、お父さんは自分の母校（重富小）にお前たちも通わせてかったんだよ。」と、自慢そうに答えたそうである。

また、「あいらびゅー号」が来訪時に観光ガイド活動をした子は、国民文化祭「歩き・み・ふれる歴史の道」でも観光ガイド活動をするのがとても楽しみだったらしく、自分のふるさとのことを観光客の方々に自慢できるのが大変誇らしかったと感想をまとめていた。この新聞の投稿記事を読まれた地域の方が、この切り抜き記事を地域の会合にわざわざ持参され、「子どもたちが自分のふるさとのことをこんなふうに誇りに思ってくれているのが本当にうれしい。」と、紹介して下さった。

さらに、この記事を読まれた中種子町の方が当該児童宛に「自分のふるさとを大切に思う子は、大人になったとき、自分のふるさとをよくしようとがんばる大人になると思います。」という励ましのハガキを送付して下さった。